

製品の変遷とパンフレット

日本珐瑯工業会発足当時(1975年~1980年)の国内状況は、高度経済発展により企業の近代化が求められる中、急激な円高が進み日本経済は戦後最大の不況下でした。一方、ほうろう業界は、家庭用品、住設・厨房関連品、家電部品、燃焼・暖房器具部品、貯湯タンク、建材パネル・看板等々さまざまな分野にほうろう製品が使用されており、活況を呈しておりました。

当時のほうろう製品の分野・用途別の種類は「1970年代の分野別製品(PDF)」を参照して下さい。

しかし、1970年代のほうろう製品の中の多くが競合により1990年代には、他の材料に変更することで無くなっています。例えば、燃焼部品では、耐熱塗料の進歩で、ほうろうから耐熱塗装に変更され、また、樹脂の性能向上で、ほうろうから樹脂製へ切り替えられ、また、ほうろうからステンレス材への変更も含まれています。次のような製品がほうろうから別の材料に切り替えられています：炊飯器外胴、湯沸器フロントカバー、卓上保温プレート、鋼板浴槽、洗濯機脱水バスケット、冷蔵庫用品扉、内箱、看板標識表示板、貯湯用タンク・ボイラー部品、煙筒、外装建材パネル等。現在、残っているほうろう製品としては、ほうろうの特性を生かせるものが多く、清潔性、安全性、耐食性を生かした家庭用品（鍋、容器類）や、耐熱性、清掃性を生かした燃焼器具部品（ガスレンジトップ、五徳類、石油ストーブトップ等）や、清潔性、意匠性を生かした厨房設備（流し台扉、キャビネット、パネル等）及びその他には耐熱性、耐薬品性を生かしたほうろう部品等が使われています。このように、現在ほうろうが残っている分野は、耐熱性、清掃性、堅牢性（表面硬度）、耐食性、意匠性等が優位になる製品が主流となっています。

1980年代に編集されたほうろうが関係する住宅機器の小冊子の写真を次に示します。



石油ストーブ、ガス給湯器、
ガスレンジ、ガス炊飯器



流し台、シンク、吊戸棚、
洗面台、換気フード



鋳物ほうろう浴槽、七宝、
アルミほうろう

設計注意点、用途別加工法
給湯機タンク



家庭用品、化学用品、建材パネル
浴槽、その他

小冊子の表紙